

沖英寮便り(ボランティア活動について)

2026年(令和8年)8月

記載責任者 寮監 儀間清浩

本資料にある画像、文章は一切転載を禁止します

寮監の提示している運営目標の一つに

「沖縄県より応援いただいている寮生活を踏まえ、恩返しのできる社会人を目指します。」があります。その中で、(ボランティア活動を頑張ろう)です。この目標は現寮監(儀間)が赴任した際に提案し、公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団(県財団)へ確認したものです。今年度で5年目を迎えるにあたってこれまでのボランティア活動を振り返ってみました。

ボランティアの対象として県財団、寮監にて認定(地域、沖縄県、全市町村、沖縄県法人、沖縄県企業から依頼のあるもの)し寮生へ投げかけて希望者を募っています。

ゴミ0デー(二丁目会)

毎年5月30日に近い日曜日に活動します。

沖英寮のある豪徳寺二丁目は豪徳寺を中心に周りをドーナツ状に囲んだ部分にあります。

豪徳寺周辺をボランティアの皆さん30人ほどで取り組みます。そのうち8人ほどが寮生です。



豆記者との交流会(公益財団法人沖縄協会さん)

毎年7月頃沖縄県から豆記者(小中学生)が40人ほど東京に来て活動します。その活動の一つに東京にいる大学生との交流があります。

沖英寮からは毎年3人ほどが参加します。

以下は豆記者との交流会に参加したF.F.さんの感想です。



私は、今回沖縄から来た豆記者たちから在京学生としてインタビューを受けるという形で参加させていただきました。インタビューの前には、豆記者団と同じ美味しい食事が提供され、琉球民謡2曲の歌のプレゼントもあり、久々の沖縄のリズムとメロディーに懐かしさを感じました。豆記者たちから、東京での学生生活や大学での学び、受験勉強のアドバイスなどさまざまな質問を受けました。彼らの、インタビューの返答を受けて熱心にメモを取り、興味を持ったことをさらに質問する姿がとても印象的で、素晴らしい姿勢だなと感じさせられました。このような貴重な機会を通して、沖縄と本土の交流の大切さを改めて実感し、自分も沖縄県出身学生として大学の勉学にしっかり励んでいこうと思いました。



インターンシップ関連(琉球新報開発さん)

毎年10月に都内市ヶ谷で開催されています。沖縄県の企業様が10社ほど東京の大学生らに「おきなわで働きませんか」とアピールに来られます。寮生はほとんどは東京近郊にて就職希望なのですが企業説明会に参加することによって彼女ら自身の就職活動にも生かせるのでボランティア活動として扱っています。毎年6人ほどが参加します。



関東エリアで沖縄県に関する催しものが頻繁に行われています。夏場では大小の差はあれ、どこかの自治体、商業施設では毎週開かれていると考えてもいいと思います。そこで、沖英寮には県産品の売り子としての手伝いや地域の広報の手伝いなどの依頼が来ます。これまで参加したことがあるものとしては

- **池袋サンシャインシティの「沖縄フェスタ(略称)」**では県産品の売り子
- 同フェスタでの国頭地区の観光に関する広報の手伝い
- **川崎市の「はいさいフェスタ(略称)」**では県産品の売り子 など
寮生は講義のない時間を調整しシフトを組んで参加します。
その際は、沖縄県をアピールするために沖英寮にあるエイサーで使用する「打ち掛け」を羽織ります。
- **近隣の地域で行われる「祭り」への参加、エイサー披露**などもあります。
右の画像は、豪徳寺「たまにゃん祭り」、
「松陰神社参道商店街秋まつり」への参加の様子です。



日にち、時間を自由に指定できるボランティアとして、「寮内の整備作業」をやっています。自身の可能な時間、内容を寮監と調整して行います。時には、寮監よりやって欲しいことも伝えます。これまで、行ったのは以下のものです。とにかく、誰かがやらなければならないことです。

(毎週寮生全員の当番制の清掃活動はありますがそれでは不十分の部分です)

- 寮生の冷蔵庫内の整理・整頓と清潔に保つ活動(複数回)
- 庭の木の剪定・除草作業
- 倉庫の整頓
- 食堂の床磨き
- 階段付近の拭き掃除とガラス拭き
- 洗濯機の汚れやカビ落とし
- 寮生全員での年末大清掃 など

